

「子どもの貧困支援」「生活困窮者支援」に取り組む生協は9割以上

✓支援ニーズが高まり、特に宅配センターでのフードドライブ実施箇所数が

223件（18年比2.5倍）で増加傾向

✓子ども・多世代食堂は787箇所（18年比2.3倍）に

日本生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連、代表理事会長：土屋敏夫）は、「子どもの貧困支援」「生活困窮者支援」に関する各地の生協の取り組みについて、1月15日の「フードドライブの日」（※）を前に、2021年度の活動状況を取りまとめました。（※株式会社カーブスジャパンが制定し、日本記念日協会に登録）

昨今、子どもの貧困への社会的関心が高まる中、この問題を子どもだけではなく、社会の問題として捉え、地域の諸団体とも連携し、具体的に取り組む生協が増えています。そして「生活困窮者支援」も「子どもの貧困支援」と連動していることを踏まえ、今回（2021年度活動分）から各生協への聞き取り範囲に「生活困窮者支援」を含め、取り組み事例を共有しています。

支援に取り組んでいると回答した生協は61生協となりました（回答生協数は66）。具体的な取り組み（複数回答あり）では「フードドライブ」（47生協）、「フードバンク」（48生協）、「子ども食堂・多世代食堂」（42生協）、「学習支援」（26生協）などがありました。フードドライブ・フードバンクのニーズが高まり、特に、宅配センターでの実施箇所数が223件（2018年度比2.53倍）で増加傾向でした。前回調査結果を発表した2018年から比較するといずれも全体数が増加しました。

2020年、2021年と新型コロナウイルス感染拡大の影響で全国的に相談件数が増え、生活困窮が広がっていることが読み取れます。加えて、昨今の深刻な物価高の影響で困窮した家庭からは、フードパントリー（食品支援が必要な時に、誰でも食品が受け取れる場所）などのニーズが高まり、今後さらに支援が必要な家庭が増えることが懸念されています。

日本生協連では、誰も取り残されることのない社会の実現に向けて、全国の生協とともに子育て支援・生活困窮者支援活動に引き続き取り組んでまいります。

＜子どもの貧困・生活困窮者支援に関する活動の内訳＞

活動年度		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
フードドライブ	取り組み生協数（生協数）	37	40	48	47	
	全体箇所数（箇所数）	488	529	563	707	
		内訳／店舗（箇所数）	350	386	374	444
		内訳／宅配センターなど（箇所数）	88	123	134	223
フードバンク	取り組み生協数（生協数）	40	45	47	48	
	食材提供（生協数）	34	37	36	23	
	場所の支援（生協数）	13	13	12	10	
	スタッフ（生協数）	16	14	18	20	
	資金提供等（生協数）	13	20	21	15	
子ども食堂・多世代食堂	取り組み生協数（生協数）	39	45	40	42	
	全体箇所数（箇所数）	331	503	668	787	
学習支援	取り組み生協数（生協数）	18	22	24	26	
	全体箇所数（箇所数）	49	49	79	72	

※関係・協力団体や地域の施設等で実施した場合はその他としてカウントしていること、また一部生協では実施箇所の内訳数の把握が難しいため、全体箇所数と内訳箇所数に差異が生じています（フードドライブ）。

※2018年度の統計から設問を一部変更していますので、2017年以前の数値と単純比較はできません。

＜お問い合わせ先＞

日本生協連広報部

TEL : 03-5778-8106

●子ども食堂・多世代食堂（42生協 787箇所）

子どもやその親、および地域の人々に対し、無料または安価で栄養のある食事や温かなだんらんを提供するための社会活動です。

- ・コロナ禍の影響を受け、飲食を集団で行う子ども食堂を休止せざるを得ない生協がありましたが、その代わりに感染予防の対策を行いながら弁当配布やフードパントリー（食品支援が必要な時に、誰でも食品が受け取れる場所）へ活動を変更して行う事例が多く見られました。
- ・生協が関わる子ども食堂は、2018年度と比較して、全体箇所数は2.3倍（331箇所→787箇所）に増加しました。

●学習支援（26生協 72箇所）

他団体と協力して行われていることが多く、生協は主に軽食用の食材、活動の場所の提供を担っています。教育現場をはじめ多方面の調整などの難しさもある中、子どもの学習意欲向上や居場所づくりにつながるという声もありました。

- ・食品回収にプラスして日用品回収を開始するなど、未使用文具寄付キャンペーン（スタディドライブ）を実施する生協も複数あり、文具が必要な学生に寄贈または、学習支援時に提供しています。

調査概要

- 調査対象：全国の70生協（地域購買生協と職域生協）のうち66生協より回答を得た
- 調査内容：2021年度に取り組んだ子どもの貧困・生活困窮者支援への取り組み
 - ・新たに始めたこと、コロナ禍の影響
 - ・子ども食堂、学習支援、フードバンク・フードドライブ
 - ・その他（奨学金など）、他団体などとの連携
- 調査対象期間：2021年4月～2022年3月

（参考）

「子どもの未来アクション」

日本生協連は子どもの貧困に関する学習活動「子どもの未来アクション」の取り組みを、生協内外を問わず2018年から全国に呼びかけています。子どもの貧困問題に関心を持つ人を増やす役割のアンバサダー登録は974人（2022年12月時点）になりました。また、2020年からは「子どもの貧困問題」支援活動への応援助成の事業を始め、今年3年目の実施を迎えています。

URL：<https://miraiaction.org/>

